

大空 (生徒・保護者向け) 35号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年4月10日(土)

池江選手が教えてくれたこと(高校入学式式辞)

□本日の概要

- 新しい学力観では、育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの要素に整理された。
- 本校はSSH校としてSTEAM教育を推進しているが、Artは「学びに向かう力・人間性等」につながるものである。
- 「学びに向かう力・人間性等」をさらに「感性、探究心、主体性、行動力、自他肯定力、協働力、創造力、想像力、道徳心」の9つの要素に整理し、育成すべき資質能力をNFC(Nishiko Future Competency)と定義した。
- 資質能力の育成のためには、学業、部活動、学校行事に一生懸命取り組むことである。池江選手は、諦めずに努力をすれば報われることを私達に教えてくれた。他人と比較せず、自分のペースで努力して欲しい。

□コロナ禍2年目の高校生活スタート

咲き誇っていた桜もいつしか新緑となり、吹き抜ける風に生命の息吹を感じるこの佳き日に、宮崎西高校PTA会長、請関八芳様、PTA中学部会長、田迫昭彦様のご臨席を賜り、第48回入学式を挙げていただけますことは、私たち教職員一同、誠に喜びに堪えないところであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可されました新入生344名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

昨年度は、新型コロナウイルスにより世界が一変した一年でした。一日でも早い終息を期待したい所ですが、まだ時間がかかりそうです。しかし、悲観することはありません。昨年は不安だらけでしたが、今年は違います。ある程度時間はかかるかもしれませんが、出口の光が見えています。昨年度は中止を余儀なくされた行事もありましたが、本年度は、新型コロナウイルスに対する対策を継続しながら、可能な限り学習も行事も推進していく予定です。感染予防策を徹底しながら、充実した高校生活を創っていきましょう。

□育成すべき資質・能力とは何か

さて、皆さんの多くは、大学などの上級学校へ進学するために、本校を志したことだと思います。本校に限らず、普通科高校では大学入試を意識した学習に取り組むため、誰もが、学習面に関する不安を持つものです。もちろん、大学入試に対応できる学力を身につけることは大切ですが、皆さんが身につけるべき学力は、大学入試問題を解く能力だけではありません。変化の著しい現代社会は正解のない課題が山積しており、その解決には、様々な情報を比較したり、他者と

議論し、協働により解決を図ったりすることが必要です。また、学生時代だけ学ぶのではなく、生涯学びに向かう姿勢も重要になるなど、多様な力が要求されます。このような時代に対応するために必要な力について、新しい学習指導要領(国が示す教育課程の基準)の中では、従来の学力観と区別するため「学力」という言葉の代わりに「資質・能力」という言葉を使っています。

「育成すべき資質・能力」は3つの柱で成り立っています。1つめは、「知識・技能」です。これは従来「学力」と言われていたものです。どんなに時代が変化しているとはいっても、様々な知識や概念、語彙力や計算力などが重要であることは変わりません。

2つめは、「思考力・判断力・表現力」です。知識というのは一種の「答え」です。ところが、答えのない課題が山積している現代社会では、答えを覚えているだけでは通用しません。知識を組み合わせる新たな考えを生み出したり、情報を批判的に分析したり、自分の考えをまとめて発表したりする力も必要です。

3つめの柱である「学びに向かう力・人間性等」とは、かつては「主体的に学びに向かう態度」とか、「関心・意欲・態度」などと表現されてきました。テストでは点数化しにくい部分なのであまり関心がなかったかもしれませんが、実はこの力が、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と同じように重要な力であることが、研究の結果、明らかになっているのです。

本校は、昨年度からスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)に認定されています。スーパー・サイエンス・ハイスクールというと理系の人だけを育成する学校のように聞こえますが、そうではなく、宮崎西高校は「STEAM教育の推進」をテーマにしています。STEAMとは、ScienceのS、TechnologyのT、EngineeringのE、ArtのA、MathematicsのMの頭文字をとったものです。サイエンスは「科学」、テクノロジーは「技術」、エンジニアリングは「工学」、マスマティクスは「数学」です。どれも大切な学問ですが、この頭文字の中で大切なのはArtです。Artとは、芸術はもちろんのこと、人文科学や社会科学、自然科学などの「教養」を含みますが、本校では、資質能力の3つめの柱である、「学びに向かう力、人間性等」につながる幅広い概念として捉えています。

□「資質・能力」を高めるには

「資質・能力」を高めるには、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの要素をバランス良く身につけることが必要です。本校が掲げる「STEAM教育」の推進も同じ意

味で、「STEM」で示される理性中心の学問と、Art、すなわち、感性のバランスをとりながら、「資質・能力」を育成しようという考え方であり、学習指導要領の考え方と同じです。

本校では、この「学びに向かう力・人間性等」の育成の部分、つまりArtの部分をもう少し具体的に理解してもらうため、昨年1年間をかけて9つの力に分類・整理しました。それは、感性、探究心、主体性、行動力、自他肯定力、協働力、Createの意味の創造力、Imagineの意味の想像力、道徳心です。そして、本校の育成すべき資質・能力をNFC (Nishiko Future Competency) と名付けました。簡単に言えば、宮崎西高校は、昔の概念での「学力」だけをつける学校ではなく、新しい時代に対応する「資質・能力」を身につけさせるため、探究活動を行ったり、学びに向かう姿勢を啓発するような様々な活動を行っていると感じて下さい。

□複数の目標を持つ～三兎を追え～



それでは、資質・能力を身につけるにはどうしたら良いのでしょうか。実は新しい方法があるのではなく、従来から学校や家庭で行われている活動について、どんな力をつけようとしているか意識して行うことです。具体的には、「学業、部活動、学校行事」の3つに一生懸命取り組むことで、埼玉県元教育長である関根郁夫氏は、埼玉県立浦和高校(埼玉のトップ校で、ラグビーの花園の常連の文武両道の高校)の校長時代、生徒達に「少なくとも三兎を追え」と語っていました。聞き慣れない言葉ですが、「二兎を追うものは一兎をも得ず」ということわざの逆を説いた言葉です。もともとの「二兎を追う」とは、目標を二つ持つことを意味しています。複数のことを目標にすると、中途半端に終わってしまうので、一つのことにと絞り込んで確実に身につけよという意味ですが、関根氏によれば、高校生活は、むしろ逆です。二兎を追うどころか、「少なくとも三兎を追え」、すなわち「学業、部活動、学校行事」の3つに取り組めというのです。学業に一生懸命取り組むのはもちろん、部活動や行事に参加することで、心身が鍛えられ、チームワークも身につきます。活躍する場が増えることが、皆さんを成長させます。また、複数の目標があると、一つがうまくいかないときでも、もう一つの目標が自分に自信を与え、支えてくれます。(芥川賞を受賞した小説家の平野啓一郎氏は、「分人」という言葉で表現しています。HPの校長通信32号を参照してください。)

□池江選手の教えてくれたこと

もちろん、複数の目標を持つと、高校生活はかなり忙しくなります。個人のCapacity(受け入れることのできる容量)は差がありますので、負荷のかけすぎには注意が必要ですが、大切なことは、他人と比較しないことです。人がやっているという事実は、自分を励ます時もありますが、比較しすぎると自信をなくすことにもつながりかねません。大切なことは、自分の目標を持ち、人と比べず、自分のペースで、焦らず、コツコツ努力することです。先日、東京オリンピックの代表に内定した池江璃花子選手は、皆さんも知っているように、選手として絶頂にあった2年前に、白血病になり、闘病を余儀なくされました。体重も筋力も落ち、東京オリンピックには間に合わないと思われましたが、奇跡の復活を成し遂げました。池江選手の、「努力は必ず報われるのだと思った」という言葉ほど重たいものはありません。池江選手の姿は、諦めずに努力すれば、必ずやり遂げられるということを私達に教え、勇気づけてくれたと思います。また、池江選手は気負っていません。「結果が何番でも、この予選に出場できることを幸せを感じよう」とレースに出場し、スタートは出遅れましたが、後から伸びてきて、1位になりました。皆さんも、まずはこの宮崎西高校の一員となったことに喜びを感じてください。スロースタートでいいのです。すぐに結果を出そうとか、評価されようとか考えず、諦めずに自然体で努力すれば、必ず、高校生活は充実したものになるでしょう。

最後にになりましたが、本日ご臨席いただいております保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠にありがとうございます。ここにいる生徒たちは、宮崎を支え、世界を支える宝です。現状の厳しさの中で、自分たちが何をなすべきかを理解できる生徒たちばかりであると信じています。私達教職員は、全力で、この宝のような子どもたちを育てます。ご心配なことは何でも御相談ください。今後のお子様方の高校生活が充実したものになるよう、教職員一同、全力で支援することをお約束し、式辞といたします。

